

Q 原子力災害緊急対応ユニットとは何ですか?



A 原子力発電所から放射性物質が放出された場合、避難や一時移転を行うこととなった住民は、まずは避難退域時検査場所に向かい、乗車してきた車両や衣服等が放射性物質で汚染されていないか確認してから、避難先に向かいます。このため、住民の避難等を迅速に実施するには、避難退域時検査場所の速やかな開設が不可欠です。

▼原子力災害緊急ユニット(全景)



▼原子力災害緊急対応ユニットのコンテナ内部



「原子力災害緊急対応ユニット」とは、避難退域時検査場所の運営に必要な資機材を、トラックで輸送可能なコンテナ内にすべて収納したものです。緊急時にはこのコンテナを直ちに輸送して、避難退域時検査場所を開設し、速やかに検査を開始します。

▼【参考】主な避難退域時検査場所

方向	避難経路	実施予定箇所
東方	東名高速	日本坂PA、日本平PA
	新東名高速	藤枝PA、静岡SA、清水PA
	国道1号	うぐいすPA、県工業技術研究所
西方	東名高速	遠州豊田PA、三方原PA、浜名湖SA、空自浜松基地
	新東名高速	遠州森町PA、浜松SA
	国道150号	竜洋海洋公園

浜岡原子力発電所の運転状況

前ページまでの環境放射能の測定を行った期間中(平成30年10月~12月)、浜岡原子力発電所の1号機及び2号機は廃止措置中であり、3号機、4号機及び5号機は運転停止中でした。

なお、平成31年3月25日現在、3号機、4号機及び5号機については施設定期検査及び地震・津波・重大事故対策等を実施しています。

「原子力だより」の内容についてご質問等がありましたら、下記までお寄せください。

静岡県原子力発電所環境安全協議会事務局

静岡県危機管理部原子力安全対策課

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL.054(221)2088 FAX.054(221)3685

E-mail antai@pref.shizuoka.lg.jp

ホームページアドレス: <http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/kakushitsu/antai.html>

静岡県環境放射線監視センター

〒421-0411 牧之原市坂口3520-17 TEL.0548(29)1111 FAX.0548(29)0335

ホームページアドレス: <http://www.hoshasen.pref.shizuoka.jp>

原子力だより No. 180



浜岡原子力発電所における原子力災害を想定し、原子力防災訓練を実施しました。



2月5・6日に、原子力防災訓練を実施しました。オフサイトセンター運営訓練や避難退域時検査場所運営訓練(スクリーニング、車両除染)、消防機関による資機材取扱訓練に加え、原子力災害対応緊急ユニットの展開訓練を初めて行うなど広域避難の実効性向上を目指した訓練となりました。

平成30年10月から12月の環境放射能の調査結果

静岡県原子力発電所環境安全協議会では、浜岡原子力発電所の周辺環境の安全を守るため行っている環境放射能調査の結果を、四半期ごとに取りまとめ、「原子力だより」でお知らせしています。

平成30年10月~12月の調査結果では、浜岡原子力発電所からの環境への影響は認められませんでした。

今回の調査結果では、東日本大震災に伴う東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故による人工放射性物質の影響が見られましたが、健康への影響は心配ないレベルでした。

(詳細は次ページ)

平成30年10月～12月の 浜岡原子力発電所周辺の環境放射能調査結果

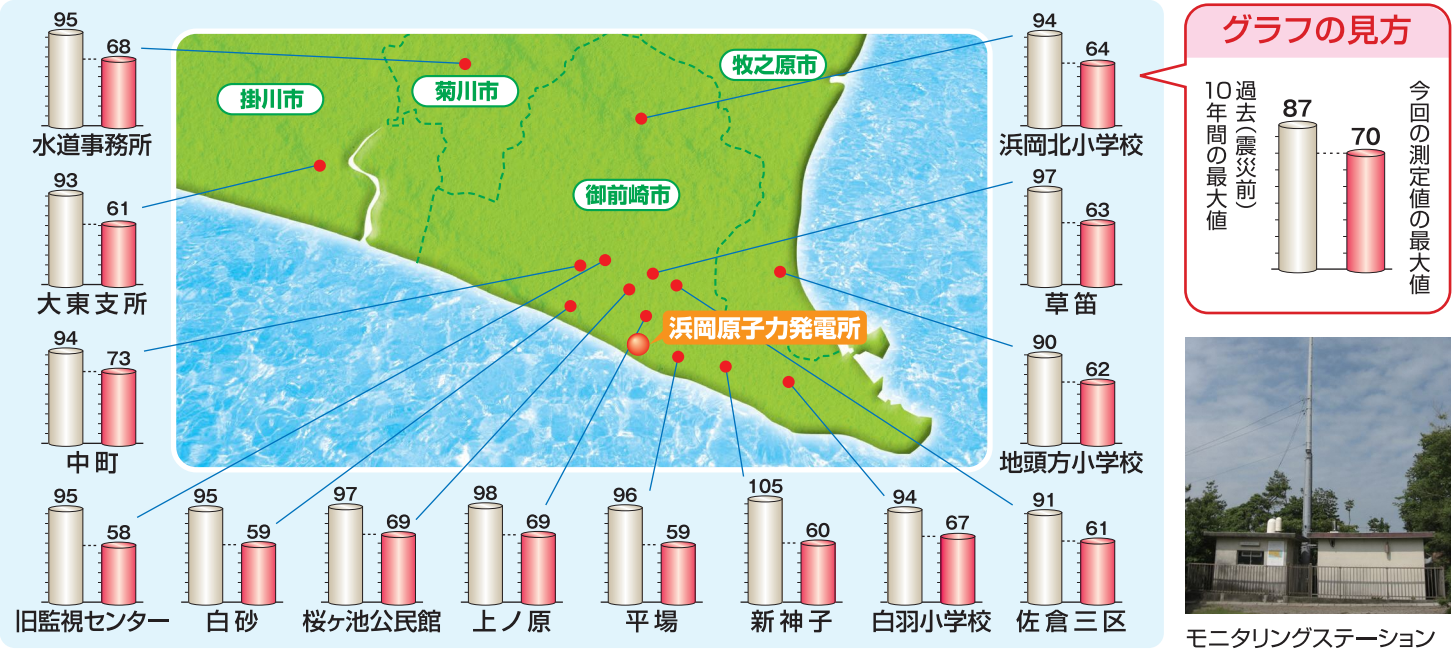
浜岡原子力発電所からの環境への影響は認められませんでした。
東日本大震災に伴う、東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故による人工放射性物質の影響が見られましたが、健康への影響は心配ないレベルでした。

空間の放射線の測定

▶1時間当たりの放射線量(線量率)

単位：ナノグレイ/時

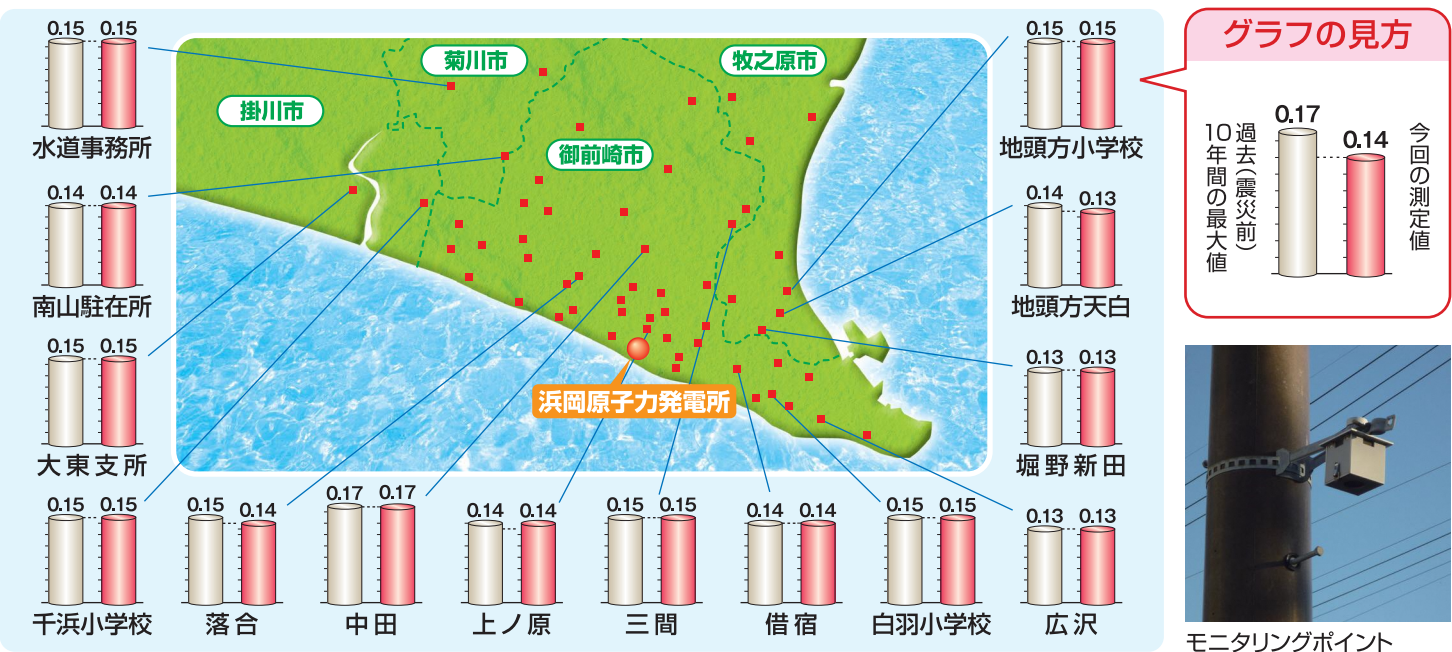
モニタリングステーション(14か所)において、空間の放射線が1時間当たりどのくらいかを連続して測定しています。平成30年10月から12月で過去(震災前)10年間の最大値を超えた地点はありませんでした。



▶3か月間の放射線量(積算線量)

単位：ミリグレイ/90日

57か所のモニタリングポイントにおいて、空間の放射線が平成30年10月から12月の3か月間(90日換算)でどのくらいになるかを測定しました。



放射能調査に用いる単位

- グレイ(Gy)……放射線のエネルギーが物質に吸収された量(吸収線量)の単位
- シーベルト(Sv)……吸収線量を基に人体への影響を考慮して算定した線量の単位
- ベクレル(Bq)……放射能の量を表す単位

【参考】ミリ(m)……1/1,000 千分の1
マイクロ(μ)……1/1,000,000 百万分の1
ナノ(n)……1/1,000,000,000 10億分の1

農産物などの放射能の測定

浮遊塵や農水産物などについて、放射能を測定しました。平成30年10月から12月の間に測定した試料の一部※は、過去(震災前)10年間の最大値を上回りましたが、いずれも国の基準等を大きく下回るものでした。検出された放射能は、過去の核爆発実験などの影響によるものや、東京電力(株)福島第一原子力発電所の影響によるものと推定しました。

※測定した17試料96検体のうち、4試料5検体

▶代表的な試料の放射性セシウムの測定値の最大値



今回の「空間の放射線の測定」および「農産物などの放射能の測定」の結果から、人工放射性物質による年間被ばく量は、最大限に見積もっても**約0.03ミリシーベルト/年**と推計されます※。この値は、公衆の年間被ばく線量限度である1ミリシーベルト/年と比べ十分に低い値です。

※「環境放射線モニタリング指針」平成20年(原子力安全委員会)から引用する摂取量に基づき推計
《参考》食品衛生法に基づく食品中の放射性物質基準値 … 一般食品【100ベクレル/kg】・原乳【50ベクレル/kg】・飲料水【10ベクレル/ℓ】

《参考》日常生活と放射線

私たちは、日常生活の身近なところで自然や人工のさまざまな放射線を受けて暮らしています。
これらの放射線の量に比べて、今回推計した年間被ばく量約0.03ミリシーベルト/年は、とても低い量であることが分かります。

